

令和3年度 出雲養護学校 学校評価報告書

令和4年3月31日

校訓	あかるい子 なかのよい子 たくましい子	重点テーマ 個性を生かした 仲間づくり
学校教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズを的確に把握して、持っている能力や可能性を最大限に伸ばし、確かな学力をつけ、豊かな人間性を養い、健やかな体を育てることにより、生きる力を育成する。	
めざす学校像	活気にみちた学校 安心できる学校 創意と工夫に富んだ学校	
めざす児童生徒像	あかるく、なかよく、たくましく、自分から活動する児童生徒	
めざす教師像	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の可能性を伸ばす「授業」に努める教師 保護者、関係機関、地域とのつながりを大切にし、連携を深める教師 教育を取り巻く社会情勢に広く目を配り、常に自己研鑽に努める教師 仲間の良さを尊び、共に学び合う教師 	

評価 A:達成できている B:ほぼ達成できている C:あまり達成できていない D:全く達成できていない

学部分掌等	評価計画				目標値に対する実績	自己評価		学校関係者評価		
	重点目標	具体的方策	評価指標	目標値		評価		課題および次年度への改善策等	評価	学校関係者評価委員からの意見等
小学部	子どもの生活につながる授業づくりをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の好きなことや得意なことを生かした学習内容の設定や、地域の資源(人や環境、素材等)を活かした授業づくりの工夫をする。 知っていることやできることを増やし、他の学習や生活場面につながるような力が育まれるよう、指導や支援の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的方策にあげた2点に関する学部内アンケートの設問の「良い」「概ね良い」の割合 ※長期休業中に学部内アンケートを実施(年2回) 	80%以上	96%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの興味関心のある題材を取り上げて授業作りをすることができたり、地域や校内の人材を活用したり取り組みを行ったりすることができた。一方で、学んだことを生活場面にフィードバックするための工夫や発信が必要だった。課題としては、PTA活動や進路研修会が十分に実施できず、子どもたちの生活につながる情報の共有や発信について、お便りや分散での研修会の実施等、実施方法を今後検討していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で校外での学習が難しい状況であるので、他学部の様子を早い段階から知ることで将来のイメージづくりができるように校内での学部間交流の機会を持つてはどうか。また保護者向けにも他学部の授業参観の定期的な実施により子どもたちのキャリア支援についてともに考える機会を増やしてほしい。 地域や校内の人材を利用して授業を行うことは児童にとって大きな刺激にもつながる。また人とかかわることの大切さも学べるのでよい。
				100%	A					
中学部	生徒同士、生徒と教職員、教職員同士等が共感的人間関係を構築できる取組を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 教員の個性や地域の力等を取り入れた仲間づくりや授業づくりを推進するための話し合いの場を設ける。また、地域連携推進部と協力して情報収集や発信を行う。 互いを理解し、尊重し合う人間関係を大切にし、気持ちのよい言葉や挨拶がとびかうよう呼びかけたり、学期始めに確認したりする。また、互いのよさを生かして指導支援がしやすいよう共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中や学部・学年会等で話し合いの場を設ける。(年2回以上 夏・冬季休業中を利用して) 学部内アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合(具体的な方策にあげた2点を意識し、仲間づくりや授業づくりの推進、共通理解等を図ることができたか。) 	年2回以上 80%以上	3回 96%	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学部おしゃべり会(年3回)のうちの2回を使って、話し合いができた。地域の力や教員の個性を取り入れた授業作りの参考になることや、学年ごとの情報交換、取り組みの反省等話し合うことができた。 取り組み等の紹介に課題があったので、次年度は実践したこと紹介にも力を入れていきたい。地域の力を活かした授業作りのためにも、引き続き地域支援部と連携しつつ、各方面にご協力を求めたい。 中間学部内アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合78%だったが、今回は96%と目標値は達成できた。 日時を決めて計画的に話し合いを設定したり、授業予定や話し合いの内容を早めに知らせたり等の工夫を今後も続ける。 共通理解を図ることは難しいこともあるが、「お互いを尊重し合い」「よさを活かして」生徒について話し合いができるよう、呼びかけを今後もしていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教員間で生徒のことについて情報共有や連携がしっかりされている。 引き続き、集団生活の中で守らなければいけないルール等も、継続的に指導してほしい。 今年度の課題を次年度につなげていく視点があること等、段階を追いながらの学びを展開しようとしている。
				80%以上	87%	A				
高等部	自ら学び考える力の育成(学力を育む)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が目的意識を明確にもちながら学習活動に取り組むための学習方法の工夫 生徒がメタ認知を高め、自己肯定感を高めていくための評価の工夫や声かけなどの支援の実施 思考する楽しさや喜びを感じ、知識の質を高める授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート『先生たちはわかりやすい授業をしているか』の回答の「いつもわかる」「わかる授業が多い」の割合(目標値80%以上) 教員アンケート『生徒自身が目的意識を明確にもちながら学習活動に取り組むための学習方法の工夫ができたか。』など関連する3つの質問の回答の「できた」「おおよそできた」の割合(目標値80%以上) 	80%以上	87%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で様々な制限がある中でも、生徒たちの達成感が得られるような授業の工夫がされていると思う。 地域連携や校内での他学部との交流を積極的に行い、できるだけ多くの体験を通して自立に向けての力をつけてほしい。 教員間の情報共有が子どもたちにとって不安軽減につながっている。 校外からの非常勤講師について、その授業が生徒にとってどうだったかというアンケートを実施してもよいのではないかと。 教員がメタ認知の理解と具体的な支援方法を知る必要がある。 		
				80%以上	80%	A				
訪問グループ	肢体不自由教育における専門性の向上を図り、授業の充実とチーム力の向上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 専門性向上のため、病理、摂食、見え方、ICT等についての知識および技能をグループ全体で学べる場を設定する。 各教科と自立活動との関連を考えながら朝の会の実践を行い、児童生徒の知識および技能の獲得・活用につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月学習会を実施する。 各クラス、朝の会の公開授業を実施する。 	年7回以上 各クラス2回	11回 2回	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> 在籍する児童生徒の実態や危機管理の内容を踏まえた研修を実施できた。研修会では参加者全員で意見交換を行うことができ、専門性向上につながったと捉えている。今後もニーズに応じた研修内容を検討していく必要がある。 研究シートを活用し、各教科と自立活動のねらいを明確にしたことにより、つきたい力が明らかになり、ねらいに迫る実践ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 医ケア児支援法が施行されたことにより、医ケアを必要とする子ども、保護者の学校への期待、要望は増加してくると思う。今後は希望する子どもの数に対するハード面とマンパワー不足が一番の課題になるのではないかと。環境整備へのご尽力をお願いしたい。子どもが安全に安心して学校生活を送るために、早めの情報収集、市町村の福祉課、教育委員会の横の連携が必須だと思う。 ICTの活用を今後も進めてほしい。
				年6回以上	15回	A				
大田分教室	好きなものやこと、自分の良さを見つけたり上げたりする	<ul style="list-style-type: none"> 教員間で実態や様子を共通理解するために、定期的に児童生徒の実態や興味関心について紹介する会「こども研」を設定する。 小中合同学習や休憩時間を使って、児童生徒に好きな遊びや活動を提示したり良さを伝え合ったりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態や興味関心を伝える時間を設定する。 「活動を提示したり良さを伝え合う場面を設定できたか」の設問の「良い」「概ね良い」の割合 	年6回以上 80%以上	15回 92%	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> SDGS等に関する学習発表の映像を見て、様子がよくわかった。引き続き学習の様子を紹介してほしい。 朝のランニングは、今後も継続してほしい。勉強するには体力も必要で、卒業後の就職にもつながることである。 ICTを用いた遠隔教育を期待している。 		
				80%以上	92%	A				

遼摩分教室	地域や身近な人との関わりの中で自分の良さや考えを、自分から積極的に伝えることができる力を育成する。	・目の前のことや将来のことについて自分の考えを整理し他者に伝えることができるように面談を実施する。(学期に2回は必ず実施する。その他必要に応じて) ・全体の中で自己目標をふりかえり、発表したり他者から評価をしてもらう機会を設けたりする。	・生徒・教員アンケート「自分の考えを自分から伝えることができたか」の設問の(4段階)評価の平均値(3.5以上目標)。教員アンケートについては「面談や振り返りの機会を設定することができたか」についても問う。	3.5以上	3.3	B	・学期に2回の面談は計画的に行う事ができた。生徒によっては2回以上行い、現状の把握をすることができた。今後も機会を捉えて面談を実施していく。 ・全体の中で発表する機会や振り返りを多く設定したため、人前でも自分の意見を発表できるようになりつつある。しかし、生徒個々の振り返りから「人に分かりやすく伝えられなかった」といった意見があった。今後も自分の考えを発表できる場を意識的に設定していきたい。	A	・実績を数値で見るとB評価だが、取組を見るとA評価でもよい。 ・生徒が相手(聞き手)に伝わるように話したいと考えていることは確かなので、場が多くなれば力はつくのではない。 ・高校に併設されていることの成果や課題はどのようなことがあるか明確にするとよい。 ・今後、高校との協働を期待する。
雲南分教室	自分のことのように他者を思いやり、大切にしようとする生徒の育成	・仲間づくりの集会を1～2ヶ月に1回程度設け、「その人らしさ」を認め、思いやりのある言動ができたかを振り返ったり学級の自立活動等の時間にフィードバックしたりする。 ・これまで実施している「友だちのよかったところ探し」をできるだけ毎日終礼時に継続して行い、他者に目を向ける機会を増やす。	・生徒・教職員アンケートの『その人らしさ』を認めて、思いやりのある言動ができたか』の質問の「良い」「概ね良い」の割合	80%以上	78%	B	・集会ができない時期もあったが、ほぼ継続して仲間づくり集会を行うことができた。学期末には生徒たちのよい振る舞いについて発表したことは有効だった。 ・「友だちのよかったところ探し」を継続して行った。よさに目を向けられる姿勢を引き続き、指導していきたい。	A	・実績を数値で見るとB評価だが、取組を見るとA評価でもよい。 ・人との関わりを通して生徒の成長が見られた。 ・今後、地元の団体等との協働を進めてほしい。
みらい分教室	児童生徒の自己理解の力を深め、一人一人の良さを生かした仲間づくりをする	・自己評価「トライ」を実施し、児童生徒が日常の言動について振り返りを通して、適切な振る舞いを身に付けたり、自分から適切な方法で気持ちを伝えたりする力を伸ばしていく。 ・自己肯定感を高められるように、定期的に分教室集会(または学部集会)を行い、児童生徒が一人一人の良さに気づき、協力し合える関係作りを大切にする。	・教職員アンケート「自己評価「トライ」の項目の見直し、及び児童生徒のふるまいや気持ちの適切な表現力向上に『トライ』を活用することができたか」の設問の「良い」「概ね良い」の割合 ・教職員アンケート「児童生徒の関係づくりに分教室(学部)集会や行事が効果的であったか」の設問の「良い」「概ね良い」の設問の割合	80%以上	88%	A	・概ねどの児童生徒も「トライ」の活用によってふるまいや授業態度、気持ちの表現力などに向上が見られた。 ・「トライ」のめあての決め方や振り返りの仕方に学級や教科で迷いもあったので分かりやすい方策を考えたい。教員アンケートだけでなく生徒アンケートを実施し検討の参考とする。 ・各学部集会が児童生徒にとって効果的であった。小学部では自信のなかった児童が集団の中で発表したり、司会進行をしたりする中で徐々に力を発揮できるようになってきた。また、友達のがんばりを見守り、励まし、称賛し合う姿も増えてきて、仲間作りにつながった。中学部では一緒に活動することで仲間意識が強まった。	A	・達成度100%はとてもよいが、目標や評価の妥当性を再検討する必要がある。
総務部	保護者や地域と連携しながら、安心・安全な学校づくりに努める。	・各部署と連絡を取り合いながら、円滑な学校教育活動が行えるように日程調整を行う。 ・学校、保護者、地域と連携し、人権教育「PTA活動」育成事業を計画的に実施する。	・教職員アンケートの「円滑に学校教育活動が行えるように、行事予定の調整ができていたか」の設問の「良い」「概ね良い」の割合 ・保護者・教職員アンケートの「人権教育「PTA活動」育成事業は、計画的に実施されていたか」の設問の「良い」「概ね良い」の割合	80%以上	88%	A	・各部署と連絡を取り、もれなく記録しながら調整していくことが必要である。 ・行事前の会場準備、使用する会場・スクールバスの種類等についても、行事予定に記載していく。 ・校外学習担当(生徒指導部)や特別教室調整担当(教務部)との連携も必要である。 ・変更や追加があった行事について、周知する方法について検討していく。 ・人権教育への意識を高めたり、取組の様子を知らせたりするために、PTAだよりの発行は来年度も実施する。 ・PTA主催アンケートの結果をもとに、主体的に参加してもらえるような活動内容や日時の設定を検討していく。	A	・コロナ禍の状況に悩まされながらも行事や連絡はきちんとできていた。保護者の意見を中心にまとめられ活動ができていた。 ・人権教育「PTA活動」育成事業を中心に活動が進められたが、コロナ禍により保護者の連携は希薄になりやすいので、その対策が今後の課題である。
教務部	・地域とのつながり(人、素材、自然、環境、文化、歴史等)を意識した学習への取組の充実を図る。	・地域とのつながりを意識した学習内容を計画的に設定できるような年間指導計画の書き方の変更及び、前後期で振り返る機会を設定を行う。 ・各学部会等で取組について振り返りを行う。	・教職員アンケート「地域とのつながりを意識した学習活動を行うことができたか」の評価良い・概ね良いの割合	80%以上	95%	A	・それぞれの学部、学年等で感染症対策を行いつつ人、素材、自然、環境、文化、歴史等、地域とのつながりを意識した学習への取り組みの工夫が見られた。今年度の取り組みを生かしながら来年度の年間指導計画を作成できるよう資料として示していく。	A	・学習機器の活用により、より一層効果的な学習を行ってほしい。
生徒指導部	安心・安全な学校生活の確立と健全な生活態度の児童生徒の育成	安全・安心な学校生活を送るために、交通マナーやルールの指導や登下校の安全指導、防犯教室等を各学部や実態に応じた方法で企画する。また、生徒心得や各学部のルールや約束をもとに学校生活や社会生活につながる指導を実態に応じて工夫していく。 ・体育祭や運動会、イズユウフェスタ等の学校行事を通して、児童生徒の発達段階に応じた方法で友だちと関わることができるように活動内容や活動方法を工夫していく。	教職員アンケートの「児童生徒が安心、安全な学校生活を送るための指導を計画的に実施できたか」の設問の「良い」「概ね良い」の割合 教職員アンケートの評価の「様々な学校行事において、児童生徒が友だちと積極的に関わる場面を設定することができたか」の設問の「良い」「概ね良い」の割合	80%以上	97%	A	・各学部、校内や校外で児童生徒の実態に応じた安全指導やルールの指導を実践することができた。高等部では警察と連携しながら防犯教室を実施し、携帯電話のトラブルや交通安全について学ぶ機会を設定した。また、学年集会等で校内ルールや社会のルールについて指導することができた。 次年度も外部の関係機関を招いての学習機会を積極的に設け、学部学年の実態に応じた内容を児童生徒に伝えていきたい。 ・運動会や体育祭では友だちに声援を送ったり、一緒に片付けをしたり等、関わる場面を多く設定することができた。中学部や高等部では3年生に役割を与え、リーダーとして下級生を引っ張るような場面を設定することができた。 次年度以降も様々な制限がある中ではあるが、児童生徒同士が積極的に関わるような学校・学部の行事を企画していきたい。	A	・コロナ禍の中、例年のようににはできない行事もあったが、様々な工夫や感染対策をして、できないことをできるように工夫されていた。
進路支援部	児童生徒一人一人のよりよいキャリア発達を目指し、教員間の連携を図りながら支援の充実へ努める。	・「将来に向けてどんな力をつけたいか」について考える教員向けの研修会を年に1回または2回実施する。 ・教員・保護者への情報発信と、教員間の連携が図られるような工夫を行う。	・「将来に向けてどんな力をつけたいか」について考える教員向けの研修会の実施回数 ・教職員アンケートの「進路支援部からの発信は、教員間で共通認識をもったり児童生徒について話し合うことにつながったか」の設問の「良い」「概ねよい」の割合	1回以上実施	2回	A	・「魅力化シート交換会(研修部と連携)」と「高等部研修(企業経営者からの講演)」を実施することができた。来年度児童生徒への支援に活かせるよう、研修や情報提供の機会を作っていきたい。 ・施設見学や保護者向けの研修会、福祉サービス事業所説明会などにより、保護者への情報発信の場は充実してきた。その反面、教員が情報を得る機会が少ないのが課題。他分掌や学部と連携しながら効率よく情報を得られる仕組みを考えていきたい。	A	
研修部	校内研究テーマ「めざす姿を明確に～カリキュラム・マネジメントの実践を通して～に基づく研究推進	・授業魅力化シートを活用した「育てたい力」の検討の機会を各授業グループごとに学期に1回以上設定する。 ・授業魅力化シートを活用した実践や研究の情報交換の機会を年に1回以上設定する。	・教職員アンケートの実施。授業魅力化シートを活用した取組を通して、「授業実践とつけたい力を結び付けて考えることができたか」について、4段階評価で「できた」「概ねできた」の回答の割合。	80%以上	86%	A	・授業魅力化シートを活用したことは、各研究グループで共通認識をもつこと、思考の整理をすること、グループ内で情報を共有することにつながり、有効だったと考える。 ・研究の推進にあたり、研究グループの状況によっては時間設定が難しい、児童生徒の入れ替わりが多い等の難しさがあったが、各研究グループの実態に応じた研究を進め方に努めるようにした。学校全体の重点課題や各学部のニーズに添って研究を進めることで、負担感を解消できるようにしていきたい。	A	・ぜひ研究成果を広く公開してほしい。

相談支援部	児童生徒の個性(良さや持ち味)を生かす支援の充実を図る。	・良さや持ち味に焦点を当てる実態把握の視点や具体的支援についての情報提供を、「相談支援部通信」や「支援会議」等で行っていく。	・教職員アンケートの「相談支援部通信(なかま)や支援会議等で得られた情報を日々の指導・支援に役立てることができたか」の設問の「良い」「概ね良い」の割合	90%以上	97%	A	A	・その子どもの良さや持ち味に焦点を当てる実態把握の視点や具体的支援についての情報提供を、様々な専門性をもつ校内の教員や支援機関の方とともに行うことができた。 ・日々の指導、支援に役立つ情報提供のニーズの高さがうかがえる。次年度は、他の分掌とも連携しながら、校内支援の充実に向けた取組を更に進めていきたい。	A	
		・支援会議やコンサルテーションの機会を積極的に活用してもらえよう、実施前後の手続きの流れをわかりやすく示したり、案内の仕方を工夫したりする。	・教職員アンケートの「支援会議やコンサルテーション(スクールカウンセラー・ウィッシュ)に関する情報提供はわかりやすく、参考になったか」の設問の「良い」「概ね良い」の割合	80%以上	87%	A		・支援会議やコンサルテーション後には、情報の取扱に留意しながら、学部会や資料回覧等を通して成果の共有に努めた。 ・スクールカウンセラーやウィッシュへの相談においては、分教室の児童生徒、保護者、先生方も気兼ねなく相談できるような方法・設定を検討していく。		
図書情報部	各学部・分教室・分掌と連携して学校ホームページを更新し、地域や保護者など外部に向けて情報発信する。 図書・図書館利用を進め、幅広い学習場面で図書館を活用できるようにする。	①計画的な更新ができるよう、各学部分掌分教室ページのHP更新計画を作成する。記事の作成には学年だより等を活用し、全校でHPの更新を行っていく。 ②閲覧しやすくなるよう、HPのレイアウト等の修正を行う。	・月ごとの更新回数 レイアウト等の修正の実施	記事またはフォトギャラリー更新 月5回以上 レイアウト修正の実施	毎月5~15回更新	A	A	・6月~1月の間、月5~15回の更新が実施できた。 ・現HPレイアウトの修正に加え、新HP運用に向けて各部署と連携してページ精選やデザインの相談、業者への連絡調整ができた。 年間を通して各学部・分教室に協力いただき更新をすすめることができた。次年度は、①年間の更新計画提示②各学部・分教室にアップロード担当者配置③簡素な起案の流れの定着等で、より効果的に情報発信できると考える。	A	・学校ホームページの更新回数が多く、児童生徒の様子も紹介され、校外の人からも興味をもってもらえるものになっている。
		①様々な図書に関心が向きやすくなるよう、季節やテーマに沿って図書を紹介するコーナーを設け、図書を紹介する。 ②全校が活用しやすくなる図書館になるよう、図書情報部員と図書館司書との連携を図り、アンケート等を活用して新図書の選定を行い、蔵書を増やす。	・月ごとの授業での図書館の活用(利用)回数を、予約表・利用表で集計	月平均30回以上	月平均34回	A		・生徒用図書の希望を教員に募り、図書館資料を利用した授業の準備を行うことができた。 ・9月43回、10月57回、11月41回、12月39回、1月26回 月平均41.2回(137.3%)※本校図書館 年間の図書館活用(利用)の月平均は34回で、目標を達成できた。次年度も幅広い学習場面で、活用しやすい図書館になるように工夫し、取り組んでいきたい。		
保健部	食への関心が高められるように、児童生徒に応じた食に関する指導を行う。	給食における食に関する指導を各学部で行う。 小:給食前時間に食に関わる絵本の読み聞かせ等 中・高:給食や食に関わる掲示等	・給食における食に関する指導を各学部で実施する。	各学部で4回以上実施	各学部で4回	A	A	・今年度の取り組みの内容を参考にし、継続する取り組みやより児童生徒の解題にあった取り組みを検討し、次年度も食に関する指導の充実に取り組んでいきたい。 ・現在、学校保健計画を見直しを行っているところである。学校保健計画の中に食に関する指導を位置づけ、保健教育全体の中の1つの取り組みとして、継続して取り組めるように意識していきたい。	A	
地域連携推進部	『出雲養護学校の魅力』を児童生徒の学習活動を通して地域に伝えたり、地域が有する『出雲の魅力』を学習活動に取り込んだりし、児童生徒が多様な人やものとの関わり合いのできる体制を作る。	発掘、開拓、連携体制作りを行った校内・校外の人材等を学習活動で活用する。	・発掘、開拓、連携体制作りを行った人材等を学習や行事の中で活用できたか。 ・各学部の学習活動の成果(作品、作業製品、学習の様子等)を営業日や近隣の公共施設、商業施設、地域の作品展等で展示することができたか。その範囲を広げることができたか。	・学習での活用実績年間10回以上。 ・展示場所延べ10カ所	10回以上	A	A	・校内の人材活用は、「出養お助け手帳の作成」!夏季ワークショップの実施!「人材活用相談カードの利用促進」をすることによって、各学部分教室の授業での人材活用、交流につながった。 ・「人材活用相談カード」により校外の人材発掘・交渉、校内への情報提供ができた。 ・地域の人材発掘をする際には、その方の活動等を尊重し、背景を知る必要がある。地域の方が多忙であることをしっかり理解し、電話連絡だけではなく、赴いたり、お話しを伺ったりしながら関係を広げ、深めていく。	A	・外部との連携にはフットワーク軽く動くことが求められるので、担当者への授業時数の軽減や人的配置などが必要である。 ・地域の情報を発信したり、取り入れたりと充実した取組がなされていた。
		児童生徒の学習の様子や成果を営業日や地域に発信し、理解啓発に努める。			10回以上	A		・神西コミセン、isyouフェスタ、営業日等で作品展示。展示したものをHP掲載した。毎営業日、カフェに各学部の作品を展示した ・人材活用授業のお礼として中学部、高等部の作業製品をお渡しした。学校の宣伝としての役割をもたせた。 ・神西小学校との交流で学年通信や作品などのやりとりをお互いに理解啓発に努めた。 ・コミセンや、郵便局、道の駅など開拓しており、今後展示場所の拡大は十分にできる状況にある。		
寮務部	集団生活や、それに伴う学生会活動等を通して、自分の役割を果たし、仲間と協力する態度を育成する。	・生徒同士が話し合ったり、主体的に動いたりすることが反映される学生会活動(部屋会、係会、行事等)やひまわりプロジェクト、ボランティア活動(ごみ拾い等)を設定する。 ・お互いの様子が具体的にわかるように、生活、諸活動等の様子を掲示して、活動の共有ができる機会を設ける。	・各活動後の生徒・教職員へのアンケートの「協力できたか(協力できていたか)」の設問の「良い」「概ね良い」の割合	85%以上	95.0%	A	A	・話し合いの場を定期的に設け、結果が反映されるような取り組みを実施した。率先して参加しようとする姿や協力する姿が見られるようになった。楽しんで意義を感じたりしながら取り組めたという意見も多かった。 ・お互いの様子がわかるよう掲示物を工夫した。なかなか全員で集まらない中、友達の様子を知る良い手立てとなった。	A	・生徒がやりたいことをうまくサポートして、達成感を感じる取組ができていた。
事務部	就学奨励費の手続について教員の理解を深める。	・本校新任者を主な対象とした教員向け研修会を実施したり、教員により分かりやすい資料を作成・配布することで、教員の理解を深め、結果として、就学奨励費の支弁区分決定に当たっての保護者の個人番号(マイナンバー)利用を促進し、就学奨励費の早期支給を図る。	・個人番号(マイナンバー)の利用者の9月末時点の支弁区分決定率	95%以上	86.0%	B	A	・書類不備のため9月末の決定に間に合わなかった者も、10月8日には決定に至り、個人番号非利用者に比べ早期の決定ができた。引き続き教員へ分かりやすく説明する工夫をすするとともに、新入生説明会で保護者に働きかけ、個人番号の利用を促進していく。	A	・目標値には届かなかったものの、迅速かつ正確さが求められる事務処理で早期決定がなされていた。 ・新入生説明会やPTA総会時での丁寧な説明が早期完了につながった。

学校関係者評価委員の総評	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも、児童生徒と保護者、先生方、地域が一体となって子どもたちの成長を支援していくために、様々な工夫をしながら取り組んでいる。 ・学校運営に関して、全体的に保護者からの評価が高く、学校環境の土台がしっかりしていると言え「安心できる学校」につながっている。 ・一人一人の児童生徒に見合った教育・指導がなされていると感じた。教職員間の連携もしっかりとされている。地域の一人としてどのように学校の役に立てるのか、一緒に考えていきたい。 ・引き続き、卒業後の社会生活に向けて、自分で考えて行動する力を、日々の繰り返しの指導を通して育ててほしい。 ・外部のリソースを積極的に活用するために地域連携推進部を新たに設置したことで学校としての窓口が一本化されスムーズな連携ができた。今後は、このシステムをどのように有効活用するかが課題である。 ・今後はランドデザインをもとに、各部署の目標設定が行われるとよい。
校長より	<p>コロナ禍が継続し、子どもたちへの学習保障がどこまでできるか心配もありましたが、「できることをできるときに」実施することができました。これも保護者の皆様や関係者の皆様のご理解とご協力があったことでした。</p> <p>校内での学部間交流の推進や保護者向けの他学部参観日のご提案をいただきました。キャリア教育の視点からも興味深いご提案でした。次年度の取組に生かせるよう検討したいと思います。</p> <p>ホームページの充実に力を入れたことについて、学校関係者の皆様からも評価をいただき励みになりました。今後も子どもたちの学習の様子や学校の取組について、積極的な情報発信をすすめます。</p> <p>医療的ケアの必要な子どもたちの環境整備や関係機関との連携について、保護者様や教育委員会とも連絡を密にししながら、必要な対応を進めてまいります。</p> <p>地域連携推進部の設置が地域との窓口の明確化につながったという評価をいただきました。今後はこの仕組みが良い効果を生み出して行けるよう、検討をしております。</p> <p>来年度も子どもたちが安心して通える学校、楽しく学べる学校、学校と地域がつながり、地域で生きる人を育てる学校を目指してまいります。</p>